

令和2年7月15日

# 普及センターだより 水陸萬頃 第2号

奥州農業改良普及センター TEL: 0197-35-6741 FAX: 0197-35-6303

いわてアグリベンチャーネット <https://i-agri.net/>



※水陸萬頃とは

「続日本書記」によると、胆江地域は「水と土地が豊かなところ＝水陸萬頃」と記されている。



## コロナと共存の時代を乗り越える

奥州農業改良普及センター 所長 加藤 満康

夏の風が焼石連峰や種山ヶ原の山々から里に吹いています。世界に新型コロナの嵐が吹き荒れ、生活が揺るがされ続けて半年経ちました。農業では、自粛生活に伴う食生活の変化が牛肉や子牛などの相場低迷をもたらし、経営が打撃を受けています。被害を受けている方々に御見舞い申し上げます。

コロナ禍が長期化するさなか、当地においても、国の補助や融資制度を柱に、県、市町、農協から各種対策が講じられており、あまねく支援が届いて経営が回復し安定化することを願っています。普及センターでも、出来る限りの支援を続けていきますので、巡回や指導会の時などにどんなことでも御相談ください。

さて、新型コロナはグローバル化に乗じて拡大し、国境を越える人の往来が閉ざされてきました。この災禍を潜るなかで、海外に依存する危うさが露わになり、翻って食料を自給する意義を改めて噛みしめています。また、地域の会合や指導会が見送られた時には、人が会うことや集うことの大切さに気付くことにもなりました。社会においては、経済情勢の悪化が失業者の増加を招いている一方で、地方回帰の機運の高まりが伝えられています。

時はコロナ禍の前には戻りません。農業でも災禍で見出したことを共有し、声を掛け合っ、共存の時代に生かしていくことが大事です。現下の課題として、収益性の向上はもとより、地域資源の活用や保険制度を組み入れた経営の安定化、大小の波に備えての営農継続体制や地域の連携強化が挙げられます。我々も先を見通して何が出来るか考えながら行動する所存です。

結びに、この地の先人が幾多の苦難を乗り越えて来たように、今の皆様の営みが次代へ受け継がれていくことを祈念します。



## 「ツマジロクサヨトウ」にご注意を！

ツマジロクサヨトウは、昨年(令和元年7月)鹿児島県の飼料用トウモロコシ圃場に国内で初めて発生が確認されて以降、各地で被害が拡大しつつあります。広食性で、稲、トウモロコシなどのイネ科作物を中心に、野菜(トマト、キュウリ)類、マメ科植物(大豆)など様々な作物を食害します。本虫と疑われる虫を発見した際は速やかに当普及センターまでご連絡ください。



写真 食害状況  
(飼料用トウモロコシ)



写真 全体図(老齢幼虫)  
体長は最大で4cm前後



写真 頭部  
「逆Y字」紋と網目模様



写真 尾部  
大きな黒斑がある

(出典：農林水産省IP「ツマジロクサヨトウ」技術資料集 [https://www.maff.go.jp/j/syoutan/syokubo/keneki/k\\_kokunai/attach/pdf/tumajiro-95.pdf](https://www.maff.go.jp/j/syoutan/syokubo/keneki/k_kokunai/attach/pdf/tumajiro-95.pdf))

## 農作業時の熱中症に注意しましょう！

東北地方の7月の天候予報は、気温は平年より高い確率が50%、降水量は平年並または多い確率がともに40%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%となっています。

曇っていても、気温が高い場合は熱中症のリスクが高まります。下記の項目に当てはまるものがあれば要注意ですので、対策を実施しましょう！

- (1) 暑さ指数(WBGT)を確認しましょう → 作業によって熱中症になる度合いは変わります。パソコンから確認できるのでチェックしましょう。( [http://www.wbgt.env.go.jp/wbgt\\_data.php](http://www.wbgt.env.go.jp/wbgt_data.php) )
- (2) 作業前、作業中にこまめな休憩を取りましょう → のどが乾いていなくても20分おきに休憩し、毎回コップ1~2杯以上を目安に水分補給しましょう。
- (3) 単独作業を避けましょう → 作業は2人以上で行うか、時間を決めて水分・塩分補給の声かけを行うなど、定期的に異常がないか確認し合うようにしましょう。

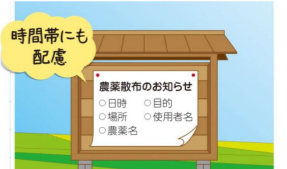


## 岩手県農薬危害防止運動実施中です！

6月1日から8月31日までは「農薬危害防止運動期間」です。

以下の事項を徹底し、農薬による危害発生を防ぎましょう。

- (1) 周囲の方への配慮 事前に散布日時を周知するなど、周囲の方に十分配慮しましょう。
- (2) 使い慣れた農薬でも、使用する際にはその都度必ずラベルを確認し、希釈倍数等の使用基準や使用上の注意事項を守りましょう。
- (3) 土壌くん蒸剤の安全使用
- (4) 容器の移し替えは厳禁



新型コロナウイルス感染症に係る農林水産相談窓口を奥州地域では、奥州農業改良普及センター(0197-35-6741) 県南広域振興局農政部(0197-22-2841)に設置しています





## 家畜の暑熱対策



今年も暑い夏がやってきます。暑熱により採食量や受胎率の低下が起こり、最悪の場合、熱中症により家畜が死亡することもあります。これら甚大な生産性低下を防ぐためには、牛が健康で快適に過ごせる環境づくりが大切です。

### 畜舎外からの熱を防ぐ

①日差し（特に西日）：西側の開口部に遮光ネット等を設置して、西日を遮りましょう。

設置の際は風通しが悪くならないように注意してください。

②輻射熱：牛舎新築を考えているのであれば断熱材を設置しましょう。既存の牛舎の場合、屋根や壁の色を日射反射率の高い白系に変えるだけでも輻射熱は大きく（2～5℃程度）減少します。



### 風を送る

牛の体に直接風をあてることで体感温度を下げるができます（秒速1mの風を当てると体感温度を約6度下げの効果がります）。風は、発汗量の多い、首から肩の部分に当てるとより効果的です。送風機（換気扇）の設置においては高さや向きの調整、台数を検討してください。

### 十分な飲水

新鮮で冷たい水が常時十分飲めるようにします。十分な吐水量があること、給水器が清潔なことを毎日確認しましょう。また、粗飼料は良質なものを給与し、必要であればビタミンやミネラルを補給してください。

## 胆江地方ニューファーマー募集中

胆江地方ニューファーマーは、先進農家のもとで実践的な研修を行い、就農準備から就農後までトータルでの支援が受けられます。ご興味のある方は、まずは就農相談窓口にお気軽にご相談下さい！

<応募締切>11月6日(金)

<応募資格>以下①～④のすべてに該当する人

①研修を経て奥州市又は金ケ崎町に就農する人

②概ね50歳未満の人

③胆江地方の主要品目で就農する人

トマト、ピーマン、きゅうり、りんどう、りんご、水稻

④就農後は、農業で生計をたてる意向を有する人



条件によっては、補助事業の併用も可能です。まずは相談してみてください！

## 就農相談窓口の日 開設日

毎月第2木曜日に開催！跡継ぎや農業を始めたい方、会社を辞める前に相談を！

- ・開設日： 8/13、9/10、10/8、11/12、12/10、1/14、2/12、3/11
- ・場所： 奥州地区合同庁舎江刺分庁舎 3階 第2会議室
- ・時間： 1回目：13:30～ 2回目：15:00～
- ・申込： 相談日の3日前までに普及センターへお申し込み下さい。



## 7～9月の作物ワンポイントアドバイス



### ●水稻

- ・いもち感染好適条件が出現しています。穂いもち予防剤を適期に散布しましょう。
- ・カメムシの第1世代の発生は、「やや多」の予報です。出穂15～10日前に畦畔の刈取りを実施し、穂揃1週間後の薬剤散布を行いましょう。
- ・極端な葉色の低下は、登熟期の異常高温の際に白未熟粒多発の恐れがあります。葉色に応じた適正な追肥を実施しましょう。併せて高温対策として夜間入水と間断かんがいを実施しましょう。

### ●大豆

- ・降雨による滞水が生じてないように、排水溝等を確認しましょう。
- ・培土は、株元までしっかり土を寄せて、収穫時に土を噛み込まないように、高さが一定になるように行いましょう。
- ・開花期を過ぎると大豆は多量の水分を必要とし、乾燥が続くと減収することもあります。干ばつ時には明渠やうね間を利用してかん水を行うことも考えましょう。

### ●野菜



- ・降雨への事前対策として排水対策を徹底しましょう。
- ・高温対策としてこまめなかん水管理を行うとともに、収穫量、気象条件などを考慮した追肥を行い、草勢を維持しましょう。
- ・ハウス果菜類では生育が旺盛となり、風通しが不良になってきますので、整枝や摘葉、誘引作業を遅れないように実施しましょう。
- ・病虫害防除を徹底しましょう。

### ●果樹

- ・果実の良し悪しが分かる時期です。収穫期まで見直し摘果を行いましょう。
- ・防除は、雨前予防散布を徹底し、散布ムラが無いよう丁寧に防除を行いましょう。
- ・褐斑病が見られた場合は効果のある薬剤を早期に散布し、黒星病罹病果、罹病葉は発見次第園地外に除去しましょう。
- ・赤色品種の着色管理は、日焼けに十分注意し、作業遅れがないようにしましょう。



### ●花き

- ・これから病虫害の発生が多くなる時期です。防除暦を基本として適期散布に努めましょう。また、発生が見られた場合はすみやかに追加散布などの対策を考えましょう。
- ・収穫後のりんどうでは次年度の株の充実を図るために、収穫後防除の継続や養成茎の花蕾の摘み取りを行いましょう。
- ・小ぎくでは、次年度の親株選抜に備えて収穫前に草丈の伸び、草姿、開花時期、病虫害の発生程度をよく観察し、目印をつけておきましょう。